

令和1年6月26日

第1回南伊豆町総合計画等審議会

1. 出席
(ア) 欠席2名(渡辺篤之・石井暁彦)
2. 町長挨拶
3. 委員委嘱
福居氏に代表して委嘱
4. 委員紹介
(ア) 福居
5年前に東京から一条、定年退職後移住、10年弱の海外経験を活かしたい
(イ) 小塚
退職を機に地域貢献希望
(ウ) 笹本
前任から引き継ぎ
(エ) 水野
4月に赴任、銀行員としての知見でお役に立てれば
(オ) 柴
4月に赴任
(カ) 岡田
南伊豆分校としては少子化が課題と感じている
(キ) 小嶋 ad
女性の委員も加えた委員会にしてもらえればと思う。
5. 会長・副会長選出
(ア) 事務局から推薦
 - ① 会長：黒田委員
 - ② 副会長：橋本委員
6. 諮問
7. 南伊豆町総合計画等審議会について

(ア) 前回までは地方自治法の規定に基づいて策定していたが、今回は条例・規則に基づき、まち・ひと・しごと創生総合戦略（5年）と総合計画（10年）の改定となる。

(イ) 5回の会議を予定しているが、場合によっては部会制での進行も必要であれば可能

(ウ) 策定の文言を入れていないのは策定後についても進捗状況について審議会で確認していく予定のため。

(エ) 黒田会長→総合戦略の推進委員会は一度閉じて、この審議会に合流する。

8. 計画策定の進め方・スケジュールについて

(ア) 資料3、基本方針参照

※令和2年度末→令和2年中

(イ) 質疑

① 流れについて【会長】

（事務局）全体の流れについて、総合計画骨子案→総合戦略骨子案と考えている。人口ビジョンについては、あらかじめ提示できれば。なるべく次回の会議からは資料を事前配布予定。

社人研数値については、すでに更新されており、前回のものより人口減少は著しい。東京の一極集中が止まらないという状況を踏まえて人口ビジョンは検討。

② 部会の設定について【委員】

（会長）ワーキングなどでも意見が集約されてくる予定。今日決定するわけではなく、次回出てきた意見を参考に部会を設けるかどうかは検討したい。事務局に素案はあるか。

（事務局）部会については総合計画策定では考えていない（マクロな視点での審議を期待しているので）が、総合戦略については内容が詳細・専門的になるため、総合戦略の策定ないしは進捗管理の段階で部会制にすることは考えている。

9. 南伊豆町総合計画について

(ア) 資料参照

(イ) 質疑

① 【会長】

住民意識調査については数字のみか

→お見込みのとおり、分析結果は次回委員へ配布。単純な集計結果のみ

② 【委員】

1. 計画・戦略の使い分けについて

→町として意思を持った使い分けはしていない。総合計画については旧自治法の頃から「計画」という文言で町の指針を表現していた。「戦略」については国でも策定をし、地方自治体においても総合戦略を策定をするよう指示があった。

2. ワーキングで具体的な話をして、それをもって骨子素案を提示するということが

→公募の方についてはワーキング・審議会どちらも参加いただいて結構。ワーキングについてはグループワークを中心に考えており、得意分野に分かれての討議を予定している。総合計画については基本構想・基本計画を定めていく関係上、マクロ的に審議したほうが良いと考えているため、総合計画についてはいずれも全体での審議。総合戦略については具体的な事業を検討するので、部会等に分けて審議していくことを想定している。

③ 【委員】

資料が見つらいので大きく印刷してください。

10. 南伊豆町人口ビジョン及び南伊豆町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(ア) 資料参照

- ① 町として、人口減少を食い止める施策として移住施策を打ち出している
- ② 合計特殊出生率を設定しておらず、年代で設定している。
- ③ 平成30年度までの結果をお示しした後、最終確認までの間にご意見を賜ればと思う。

(イ) 質疑

① 【会長】

まち・ひと・しごと創生基本方針2019について

→基本方針の検討内容について、国からお示しがあったので参考までに。
町の総合戦略は基本的には国の基本方針に沿って作る。

② 【委員】

- 1. C C R Cについて、南伊豆町生涯活躍のまち3つの視点は今も生きているか
→お見込みのとおり
- 2. K P Iという文言について簡単に説明をお願いします。
→指標を設定しその指標について目標を設定する。指標の出し方は様々だが、基本的にはいわゆるアウトプットからアウトカムへの指標へ使った。年度単位で目標設定については見直しをはかっている。

③ 【委員】

- 1. P.13進学・就職を考えても南伊豆分校は南伊豆町に残る可能性が高い。

就職は主に公務員を目指している。巨額な資金があって企業を呼び込むことは現実的ではない。卒業する生徒の居場所づくり。

2. また、「暮らしやすい」観点からというところの地域の産科医は下田に1件しかない。結婚→出産を考えた時に安心できないのではないか。
3. 定住を考えた時には安心という観点から産科医だけでなく、子供を診られる大きな病院も必要になってくる。
4. 女性の視点も必要だと考える。

④ 【委員】

1. アクションプランEについて、「地域ぐるみ子育て応援事業」南上小学校のみ例示があるが、ほかの小学校には触れられてはいない。
2. 6つのアクションプランと21の事業の関連性については詳しく述べられていない。例えば、A-5はA-2に包括されるのではないか。
3. 子育てのプロジェクトについては保護者の観点から意見があったほうが良いのではないか。E-4も実際に子供たちに聞いたほうが良いのではないか。ボトムアップを基本とするべきではないか。

→27年度については100人委員会を設定し、小学校4年生以上が参加、町からも授業をさせていただいた。「子供版総合戦略」も策定した。

→こどもたちの意見を聞ける機会も増やしていきたいと考えている。

⑤ 【アドバイザー】

1. 改めて、総合計画をどう評価しなおすのかがスタートになるかと思う。
2. 中央政府から方針が示され、地方自治体はどうするのか。中央の財政方針のままでは地方はやや厳しい。南伊豆の視点で町をどうしていくのかというのを考えなくてはならない。
3. 大学に入れば子供たちは出ていく。1度は都会に住んで視野を広げて、改めて自分が生まれ育った町をどう感じるのか。誇りを持つようにしてほしい。

⑥ 【アドバイザー】

1. 新しい世代を生み出しにくいという現状を再認識するきっかけとなったのではないか。
2. 山の活用・温室の利用という点に目が行きがちだが、根本の人の暮らしという点にフォーカスされたということに感銘を受けた。